

平成 30 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会

報告書



日時 平成 30 年 9 月 21 日（木） 午後 6 時 30 分～8 時 30 分

場所 朝日会館

参加者数 29 人

市長	北 猛俊
副市長	石井 隆
教育長	近内 栄一
総務部長	稲葉 武則
市民生活部長	山下 俊明
保健福祉部長	若杉 勝博
経済部長	後藤 正紀
建設水道部長	吉田 育夫
学校教育課長	佐藤 清里
ぶどう果樹研究所長	川上 勝義
企画振興課長	西野 成紀
財政課長	藤野 秀光
財政課主幹	高田 敦子

【市長 開会のあいさつ】

みなさん夜分、大変お疲れのなか大勢の方にご出席をいただきお礼を申し上げます。今日の地域懇談会は、朝日町、本町、日の出町の町内の方々に地域の中で抱えている課題などの話を聞かせていただきます。

ただいま市長の紹介がありましたが、4月に選挙があり、5月に就任してから4カ月と少しが経ったところです。この間、いろいろな方々から行政に関わるご示唆をいただきながら務めています。現在、9月の定例会が開会中ですが、様々なご意見をいただいています。就任させていただいたときにも所信表明のなかで課題として出させていただきましたが、富良野市が当面解決をしなければならない課題としまして、「JRの問題」「市庁舎の問題」の2点を話題提供し、今までの経過とこれからの方向性を説明させていただいたあとに、みなさんからご意見をいただき、今後の行政運営や対応の参考にさせていただければと思っています。

いずれにしましても、これからのまちづくりは、みなさんに参加をいただいて、みなさんの満足度を高めていく、そうしたまちづくりが大切だと思っています。短い時間ですが忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

1. 鉄路のあり方

【ご意見】

- 市から補助としていくらなら出せるのか。国から400億円出るが、それで終わりなのか。さらに負担を求められたらどうするのか。その先のことを考えた方が良いのではないか。
- 根室本線で札幌まで行くとき滝川で乗り換える。JRが利便性を損なわせたことに問題がある。利便性を良くしてもらうような要請も必要ではないか。直通の本数が増えれば乗る人も増えるのではないか。
- 鉄路はぜひ残してもらいたい。物流の関係では農作物の玉ねぎとじゃがいもをコンテナで運ぶ必要がある。また、観光客が駅のホームで乗り降りするとき、大きな荷物を持ちながら階段を上り下りしなければならない。利用者には高齢者も多いので、安心して乗り降りができるような利便性の向上が必要ではないか。
- 富良野市の考えでは、ある程度の支援をしてでも鉄路は残すべきだと書いてあるが、3路線とも残したいということなのか。災害の関係で根室本線は新得までが不通の状態が続いている。資料で見ると輸送密度も非常に少ないし営業損失が大きい路線でもあるため、例えば、富良野-新得間だけはバスにして、3路線を維持するという考え方もあるのではないか。
- 富良野-新得間は諦めるというような考え方もあるのか。南富良野高校に通っている生徒が20人くらいいるし、重要なことだと思っている。
- 以前から要望が出ていたが、駅前から協会病院に抜ける道には国道と立体交差の2箇所がある。昔は、現在の春日町セイコーマートに抜ける道路が通れたが、駅の構内ということで通れなくなった。今後、自治体が鉄路の負担をしていくのであれば、その道路を通してもらいたい。そうなれば駅前から協会病院に抜けることができ便利になる。
- 市長は根室本線対策協議会の座長だが、各市町村から考え方が出されていると思うが、市としてどうしたいのか教えてほしい。

○JR北海道単独では収入が見込めないため営業損失がでると書いてあるが、この収入には旅客と貨物が含まれているのか。貨物を客車とつなぐことはできないのか

【市の回答・対応方針】

- 物流については農産物を中心に年間9万トンを積載しています。貨物をすべてJRからトラックに転換するのは不可能だといわれています。そういう意味では、貨物がなくなると農業に与える影響が大きいし、また農業に与える影響は富良野市の経済にとっても大きく関わるため、貨物を含めて鉄路はなんとか維持していく方向で検討していきたいと思います。
- 駅舎の関係ですが、以前からバリアフリーの改修についてJRに要請しています。その要請のひとつとして、自治体の負担がともないましたがトイレの改修が行われました。次の課題としては駅舎のバリアフリー関係ですが、JRの経営内容も含めて了承を得られないのが実態です。観光客の大きな荷物とのご意見もいただきましたが、バリアフリーの方法もいろいろあると考えています。ホームからホームへ階段を使わずに通行する方法を検討できないのかをJRと協議をしていきたいと考えています。
- 昨年、他の会場の地域懇談会では南富良野高校に通学するにはバスの方が便利だという意見もありました。しかし、バスが運行していても、根室本線を残していなければ途中寸断されて陸の孤島になるだろうといわれています。しかし、実際に各自治体が本当に負担できるのかという議論もあります。根室本線対策協議会では滝川から新得までをつなぐということを進めています。
- 根室本線対策協議会の考え方は、関係する滝川から新得までの自治体すべてが存続に向けて国とJRに要請しているというのが基本になります。国交省の方針では、国が400億円を出す以外に周辺の自治体の協力とJRの自助努力で経営を立て直し、この後、さらなる負担としては国と地方自治体でどの程度の負担ができるのか。その負担をすべての自治体が存続に向けて意思統一ができるのかということがこれからの協議の中身になってくると思われます。
- 富良野線は現在1,500人くらいの利用状況です。もう少しの努力でJR北海道が単独で維持する路線の基準値2,000人を達成できるため、2,000人を目指していきたい。
- 根室本線の富良野-新得間は、占冠村のトマムと新得町のサホロという大きな観光拠点があります。それを富良野・美瑛観光と連携させるために、新得町、南富良野町、占冠村と同調しながら存続をしていきたいと考えています。
- 富良野-滝川間は、貨物をなくすことにはなりません。農業と富良野市の経済に大きな影響がでるため残していかなければならないと考えています。
- この資料の収入には旅客のみで貨物は入っていません。貨物は年間9万トンだが、行きは9万トン積載しているが帰りは空となります。帰りの空の状況がJR貨物にとっては大きな問題となり赤字につながっています。貨客混載もありますが、実際には夕方5時半に出発して翌朝の6時半に戻ってくる運行状況です。利便性を考慮すると一緒にならないとJR北海道からいわれている状況です。

2. 新庁舎建設について

【ご意見】

- 新庁舎を建てる位置は現在の場所と同じだが、防災機能を持った災害に強い庁舎ということであれば、最近の災害は水害も地震も想定外ということがあがるが考えられるが、現在の場所で水害が起きた場合は支障がないのか。
- 浸水50cmを想定したとしても、実際の水害で想定外だったとならない計画を作ってもらいたい
- 文化会館の機能のうち大会議室の利用率は高いと思うが、そのまま新庁舎で計画をされているのか。調理室も併設する考えなのか。市民が利用しやすいようにしてほしい。

【市の回答・対応方針】

- 空知川が100年に1度の洪水があった場合を想定したハザードマップを作成し、市民のみなさんにお知らせしています。その中では、現在の庁舎の位置は50cmの浸水があると想定しています。そのことを加味しながら現在の庁舎の建て替えの際に高さを調整していく必要があると考えています。
- 文化会館の稼働状況は、大会議室が52%、中会議室が一番高く70%となっています。会議室は現状を維持した規模を考えていますが、庁舎にも会議室があるため共用利用を検討していきたいと考えています。
- 調理室は、隣の保健センターにも同じような調理室があるため、必要かどうかを今後検討していきたいと思います。

3. 高齢者の公共交通について

【ご意見】

- 高齢者は車の運転免許証を返納する人が多くなっている。ハイランドふらのに行く場合、タクシーでは片道5,000円くらいかかる。そうすると利用したくてもできない状況があるが、できれば週何回かは有料でもいいのでバスを乗れるようにしてほしい
- 高齢者にやさしいまちづくりを今後期待していきたいと思う

【市の回答・対応方針】

- 高齢者がこれから増えるということで公共交通を含め、市内の交通網をどう考えていくのかは大きな今後の課題と考えています。保健福祉部では要介護認定者や公共交通機関を使えない方、自分でバスに乗れない方、JRに乗れない方にはタクシーの助成を行っていますが、バスやJRも含めて、市内の公共交通を今後どのようにしていくのかを庁内で横断的な議論をしていく時期にきていると考えています。

4. 空き家と公営住宅について

【ご意見】

- 国の住宅が空き家になっている物件がいくつかある。使っていない住宅を国から払い下げしてもらい、一般市民に利用してもらうことはできないのか。
- 全国的に空き家が問題になっている。市でも行政代執行をやってもらいたい。
- 東小学校の周辺には空き家の公営住宅が多いが、今後も公営住宅の整備を進めて欲しい。

【市の回答・対応方針】

- 空き家の状況については、今調査を行っているところです。民間の方が所有している空き家を調査して、どのように有効利用できるのかを検討していきます。今後、全市的な空き家の総数を把握し、所有者に対してアンケート調査を行い、売るか貸すのかを確認します。その調査結果を基に、審議会や協議会を立ち上げて空き家対策をしていきたいと思っています。
- 国や道の職員住宅の有効利用は、総務部と連携して検討していきます。
- 今後、空き家の調査を行い協議会を立ち上げて、特定空き家の指定をした中で必要に応じて、その持ち主に対して勧告をし、最終的にどうしてもその方が応じていただけない場合には行政代執行という形になります。富良野市で行った事例は行政代執行ではなく、相当古い建物であったため近隣に危険が及ぶことから、緊急避難措置として市が履行したものです。市が取り壊しを行った場合でも費用負担は持ち主に負担してもらいます。
- 麻町公営住宅の空き家は政策空家で、取り壊すことを前提に入居者を募集していないものです。1棟全戸が空き家になった時点で取り壊し、その場所に新しい公営住宅を建てていく計画です。今年度も1棟8戸の公営住宅を建てています。平成34年度までは、毎年度1棟ずつ建てていく予定です。新しい公営住宅では、1階を高齢者が住めるようなバリアフリーにしています。2階から3階は若い人に住んでもらい、高齢者と若い人が一緒に住める整備を行っています。

5. 防災体制について

【ご意見】

- 先日の地震のとき、市の広報車が心配な人は避難所に集まってくださいと周知していたが、行っても食事も寝具も何もない。また、備蓄はどの程度あるのか
- 防災訓練の関係で、大規模な洪水が起きて避難する場合、本町第3町内会でも独居高齢者が多くいるが、そういう人たちは誰が見に行くのか。ある自治体の話を聞くと災害訓練のときには誰と誰が誰を見るというところまで決めていると聞いた。どうやって運ぶのかと聞いたらリヤカーまで用意していると具体的に決めている。富良野市はそこまで考えているのか教えて欲しい
- 町内会長やっているが民生委員だけでは手に負えない。どうしたらいいのか考えている。1人を助けるには2人体制が必要になる。

【市の回答・対応方針】

- 洪水で避難勧告や避難指示があれば、該当地区の町内会長や民生委員を通じてお知らせし、街宣車で避難指示と避難場所を周知します。また携帯電話による安全安心メールでも避難の周知も行います。その他の周知方法では、NHKテレビで、地上デジタル放送のDボタンを押すと富良野市の避難勧告や避難所の情報が得られます。また、FMラジオふらのも含めてみなさんにお知らせしていきたいと思っています。
- 避難所に避難されてきた方への支援では、炊き出しも考えています。今回は停電ということで夜暗くなって不安がある方に退避する場所ということで設置しました。2日間で約20人の方が避難所に退避されました。
- 今回の地震では、退避場所ということで電気を用意して利用をしていただきましたが、通常の避難勧告では自宅へ戻るができないので寝具や食料を用意することになります。今回は停電だけなのでそういった対応にはなりませんでした。
- 備蓄は市庁舎に約500人分の毛布があります。各支所や学校にも置いてあります。食料は炊き出しの体制をとることになっています。
- 一昨年、山部中学校に避難したときに食料が全くなって大変だったことを反省し、振興公社のハイランドふらので炊き出しの協力体制をとり、作りたての温かい食料600食を持っていきたいと考えています。
- 独居高齢者や障がい者などの要支援者は随時リストアップしています。実際には、各町内会の地域防災組織に避難の支援をお願いすることになります。
- 今年の防災訓練では民生児童委員会が参加することになり、民生委員が日ごろの見守りの中からできている「支え合い助け合いマップ」の活用も含めて実際に動いてもらうことを想定しています。市から民生委員に連絡し、直接高齢者の方に声をかけてもらい、必要に応じて消防の車両か市の車両で自宅へ迎えに行くという訓練をします。
- 自主防災組織の防災訓練では、過去に麻町の町内会で体があまり丈夫じゃない人の避難を自主防災組織で考えていただいたことがありました。そのときは、洗濯の物干し竿2本に毛布を巻いて担架をつくり運んでみたり、一輪車に乗せてみたりといろいろな研究をしていただきました。そうした自主防災組織の活動が今後大事なことだと思っています。
- 全市的な取り組みとして、町内会に自主防災組織を組織していただいて自助と共助の助け合いの話をしてもらいたいと思っています。自主防災組織がないと地域には総務課の職員を呼んでいただければお話しさせてもらいます。

【市長 閉会のあいさつ】

長時間に渡りご意見とご提案をいただきましたことにお礼を申し上げます。JRの関係、駅舎の関係、市の負担に対する心配についてご意見をいただきました。市庁舎の関係については、文化会館と市役所の利便性について提案をいただきました。また、地域の課題としましては、高齢者にやさしいまちづくりに努めてもらいたいとのことで、ハイランドふらのの利用や、災害時の避難に関して貴重な意見をいただきました。

庁舎の関係につきましては、現在の庁舎は何かの用事があるときに訪れるというイメージですが、目指しているのは子どもから大人まで、用事がなくても市役所や文化会館に来て、楽しんで、くつろいでいただけるような施設にしたいと思っています。JRの可能性については、さまざまなことが考えられます。このあとも国に対して要請していきたいと考えています。まちづくりの関係については、高齢者

にやさしいということ、防災の関係についても民生児童委員の話もでていましたが、若い方々の協力が
ないとまちづくりとして成り立ちません。今日いただいた地域の課題の解決に向けて取り組んでいき
たいと思っています。よろしくお願ひしたいと思ひます。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
70歳以上	女性	今回の地震で色々なことを体験しました。富良野は災害のない町といわれていますが、安易な考えではいけないと思ひます。
60-69歳	女性	鉄路の利用にともない、病院（通院）の医師の充実もあわせて考えて欲しい
50-59歳	男性	鉄路は大切なので、ぜひ残して欲しい。負担は仕方ないと思ひます。新庁舎は必要と考えます。設計などは市内の業者を使って欲しい。他の都市のコンサルティング会社等では不安です。
70歳以上	女性	冬はバスが止まることが多いため、鉄道が頼りになるので大切です。もう少し高齢者でも乗りやすくして欲しい